

## 教員研究紹介

### 吾妻 知美

研究分野：看護倫理・管理学

研究活動：

#### 学会発表

(国際学会)

- 1) Chisato Kimura, Mami Sonobe, Mayumi Ikeda, Tomomi Azuma, Michiko Watanabe, Mie Hamasaka, Hirata Naoko(2017) : A qualitative study of primary school student's leaning through sexuality and relationship education(SRE)program based on collaboration by midwives and school teachers in Japan, The 20th EAFONS, Hong Kong, China, March.
- 2) Mami Sonobe, Chisato Kimura, Tomomi Azuma, Michiko Watanabe (2017) : Second-year elementary school students' leaning through fetal and childbirth education by midwives and school teachers, The 3rd International Society of Caring and Peace Conference, Fukuoka, Japan, March.

(国内学会)

- 3) 辻尾有利子, 吉岡とも子, 安田美緒, 辻尾有利子, 服部美景, 越智幾世, 太田真由美, 中村尚美, 吾妻知美 (2016) : 専門看護師による副師長を対象とした看護倫理研修の取り組み 第1報—研修後の倫理的行動の変化に焦点を当てて, 第3回日本 CNS 看護学会, 東京, 6月.
- 4) 安田美緒, 吉岡とも子, 辻尾有利子, 中村尚美, 吾妻知美 (2016) : 専門看護師による副師長を対象とした看護倫理研修の取り組み第2報—倫理的行動を行う上で副看護師長が感じる困難とその対処, 第3回日本 CNS 看護学会, 東京, 6月.
- 5) 武士由美, 青山ヒフミ, 吾妻知美 (2016) : 社会人経験をもつ看護学生の学習上の課題—基礎看護学実習の経験を通して感じた困難から—, 第26回日本看護学教育学会, 東京, 8月.
- 6) 齋藤深雪, 加藤真理子, 鈴木英子, 吾妻知美, 丸山昭子 (2016) : 統合失調症をもつ精神科デイケア利用者の生活機能と通所目的の関係, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 11月.
- 7) 山岡愛, 吾妻知美 (2016) 在宅療養へ至った重症心身障碍児の母親のレジリエンス, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 11月
- 8) 岡崎美晴, 神谷美紀子, 江口秀子, 吾妻知美 (2016) チーム医療を実践する看護師に必要な能力の検討—看護師へのインタビューから—, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 11月.

### 岩脇 陽子

研究分野：成人看護学, がん看護学, 看護教育学

研究活動：

#### 著書

- 1) Yamanaka R, Yoshioka S, Fujimoto S, Iwawaki Y: LONG-TERM OUTCOME AND SUPPORTIVE CARE IN PATIENTS WITH PRIMARY CENTRAL NERVOUS SYSTEM LYMPHOMA. pp 285-291, In Yamanaka R (ed.), Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL): Incidence, Management and Outcomes, Nova Science Publishers, NY, 2016.

#### 論文

- 2) Murota M, Iwawaki Y, Uebaba K, Yamamoto Y, Takishita Y, Harada K, Shibata A, Narumoto J, and Fukui K (2016):Physical and Psychological Effects of Head Treatment in the Supine Position Using Specialized Ayurveda-based Techniques. The Journal of Alternative and Complementary Medicine, 22(7):526-32.

研究報告

- 3) 柴田明美, 岩脇陽子, 室田昌子, 新垣洋美, 井林寿恵, 滝下幸栄, 山本容子, 原田清美, 松岡知子, 山中龍也 (2016) : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 :

1-12.

- 4) 滝下幸栄, 岩脇陽子, 藤本早和子, 室田昌子, 山本容子, 吉岡さおり, 原田清美, 曾我典子, 田島正恵, 井上恭子, 菅谷和子, 服部美景, 小城智圭子 (2016) : 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護研修会の学習効果と課題, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 37-45.
- 5) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉森敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016): 大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 47-55.

#### 学会発表

- 6) 西田直子, 鈴木ひとみ, 原田清美, 岩脇陽子, 山本容子, 室田昌子, 埴田和史, 辻村裕次 (2016) : 車いす利用者による京都市内の避難所のバリアフリー情報に関する評価, 第 57 回日本社会医学学会総会, 草津市, 8 月.
- 7) 岩脇陽子, 室田昌子, 柴田明美, 山本容子, 滝下幸栄, 松岡知子 (2016) : 看護基礎教育における慢性期患者の在宅ケアに向けた継続看護の教育方法の検討, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 8) 柴田明美, 岩脇陽子, 松岡知子, 滝下幸栄, 山本容子, 井林寿恵, 室田昌子, 原田清美, 新垣洋美 (2016) : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 9) 松尾恵美, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 濱田知枝, 宮脇舞, 井林寿恵, 室田昌子, 柴田明美, 松岡知子 (2016) : 治療開始時のインフォームド・コンセント時に同席した看護師が小児がん患児の家族に実施した対応, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 10) 武山雅志, 岩脇陽子, 北岡和代, 室田昌子, 丸岡直子 (2016) : 友人関係から見た看護学生のコミュニケーションスキルの特徴, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 11) 福本環, 岩脇陽子, 松岡知子, 岩破一博 (2016) : 産婦人科医師の性暴力被害者に対する支援の実態 妊娠検査および緊急避妊処方に焦点をあてて, 第 57 回母性衛生学会, 10 月, 東京.
- 12) 福本環, 岩脇陽子, 松岡知子, 岩破一博 (2016) : 産婦人科医師の性暴力被害者に対する支援の実態 性感染症検査および治療薬処方に焦点をあてて, 第 35 回日本思春期学会, 10 月, 東京.
- 13) 宮脇舞, 岩脇陽子, 吉岡さおり, 松尾恵美, 濱田知枝 (2016) : 緩和病棟に入院しているがん患者の倦怠感を軽減するハンドトリートメントの予備的研究, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 14) 濱田知枝, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 宮脇舞, 松尾恵美 (2016) : 病棟看護師が捉える看護師間に生じている肯定的な相互作用の内容, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 15) 佐伯良子, 藤原由美, 岩脇陽子 (2016): 人工股関節置換術を受ける患者への日常生活指導演習の学習効果, 第 43 回日本股関節学会学術集会, 大阪, 11 月.

#### 江本 厚子

研究分野 : 老年看護学, 在宅看護学

研究活動 : 該当なし

#### 北島 謙吾

研究分野 : 精神看護学

研究活動 :

#### 著書

- 1) 北島謙吾編・著, 萩典子, 前川早苗, 大谷恵 (2017) : 看護カウンセリング論 看護師による「カウンセリング事例」集, 姫路, 学術研究出版, 4-20, 159-175, 2 月.

#### 学会発表

(国際学会)

- 2) M,Mitsuhashi, M,Komatsu M,Yamagata E,Hashimoto H,Masumoto K,Kitajima E,Manabe (2016):Self-Management Program at Improving Sleep & Daily rhythm for People with Schizophrenia,3rd Korea-Japan Joint Conference on

(国内学会)

- 3) 北島謙吾, 河村奈美子, 永江誠治, 花田裕子, 岩瀬信夫 (2016): 虐待被害児を養育する児童養護施設およびファミリーホームへの全国調査, 日本精神保健看護学会第 26 回学術集会, 滋賀, 7 月.
- 4) 三橋美和, 小松光代, 榎本妙子, 北島謙吾, 眞鍋えみ子 (2016): 統合失調症をもち地域で生活する人の睡眠と生活リズムに影響する要因, 日本睡眠学会第 41 回学術集会, 東京, 7 月.
- 5) 三橋美和, 小松光代, 橋本秀実, 榎本妙子, 眞鍋えみ子, 北島謙吾, 上野昌江 (2016): 統合失調症をもち地域で生活する人の睡眠と生活リズムに関する保健行動とその関連要因: 日本公衆衛生学会第 75 回学術集会, 大阪, 10 月.
- 6) 北島謙吾, 永江誠治, 花田裕子, 星美和子, 本田純久, 小澤寛樹, 岩瀬信夫, 河村奈美子 (2016): 待被害児を養育する児童養護施設への全国調査: 養育の特徴と看護支援ニーズ, 第 22 回日本子ども虐待防止学会, 大阪, 11 月.
- 7) 河村奈美子, 花田裕子, 星美和子, 本田純久, 小澤寛樹, 北島謙吾, 岩瀬信夫 (2016): 虐待を受けた子どもの養育についての課題: 里親の視点から捉える難しさ: 第 22 回日本子ども虐待防止学会, 大阪, 11 月.
- 8) 福田弘子, 占部美恵, 北島謙吾, 水野正延 (2017): 統合失調症患者の社会機能と抗精神病薬服用量の関連, 第 12 回日本統合失調症学会, 米子市, 3 月.

その他

- 9) 花田裕子 (代表者), 北島謙吾, 岩瀬信夫, 小澤寛樹, 河村奈美子, 永江誠治, 本田純久, 星美和子 (2016): 16 歳以上の虐待被害者を対象とした包括的継続的自立支援に関する研究, 平成 24 ~ 27 年度科学研究費基盤研究 (B) 成果報告書.

## 關戸 啓子

研究分野: 基礎看護学

研究活動:

著書

- 1) 東あかね, 關戸啓子, 久保加織編集 / 磯部由香, 上杉裕子, 關戸啓子, 他 13 名 (2017): 栄養科学シリーズ NEXT 健康管理概論 第 3 版, 132-135, 165-170, 講談社サイエンティフィク, 東京.

論文

- 2) 細名水生, 上杉裕子, 關戸啓子 (2016): 日中短時間仮眠の光環境が若年女性の気分状態と作業効率へ与える影響 看護師の夜勤前の仮眠を想定して, インターナショナル Nursing Care Research, 15(2): 103-111.
- 3) Ryosuke Sasaki, Keiko Sekido (2016): Dilemmas experienced by ICU nurses when they care for patients with symptoms of delirium, International Nursing Care Research, 15(4): 19-30.

学会発表

- 4) 原田清美, 山本容子, 關戸啓子 (2016): 看護学生の食事介助で大切にすべきことへの認識の変化 - 演習実施前後を比較して -, 日本看護学教育学会第 26 回学術集会, 東京, 8 月.
- 5) 鴨谷実穂, 宇野舞花, 細名水生, 三谷理恵, 關戸啓子 (2016): 看護学生における睡眠習慣及び睡眠の質の実態, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 6) 宇野舞花, 鴨谷実穂, 細名水生, 三谷理恵, 關戸啓子 (2016): 簡便な方法による就寝前アロマオイル使用が睡眠の質へ与える影響, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 7) 關戸啓子, 佐々木亮輔 (2016): 日本と海外における ICU 入院患者への抑制に関する研究動向と課題, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 8) 佐々木亮輔, 關戸啓子 (2016): せん妄症状のある患者への看護ケアで ICU の看護師がジレンマを抱く状態, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 9) 原田清美, 西田直子, 滝下幸栄, 山本容子, 關戸啓子 (2016): 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究 - 簡易栄養評価法 (SNAQ) を用いた栄養評価 -, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 10) 堤かおり, 關戸啓子, 植村小夜子 (2017): 緩和ケア病棟看護師の成長につながった体験, 第 24 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米, 久留米市, 2 月.

- 11) 關戸啓子, 堤かおり, 植村小夜子, 佐々木亮輔 (2017): 在宅緩和ケアに関する現状と課題についての文献検討, 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米, 久留米市, 2月.
- 12) 關戸啓子, 植村小夜子, 堤かおり, 佐々木亮輔 (2017): 在宅で高齢者を介護する介護者の負担についての文献検討, 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米, 久留米市, 2月.
- 13) 原田清美, 越智幾世, 滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 關戸啓子, 東あかね (2017): 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究一年齢区分別, 栄養状態の比較検討一, 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知市, 2月.
- 14) 池上真由美, 西田直子, 關戸啓子 (2017): 新人看護師が看護基礎教育で学んだ清拭と臨床現場で実施する清拭の基本事項の意識度と実施度の検討, 日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会, 高槻市, 3月.
- 15) 三谷理恵, 齊藤奈緒, 上杉裕子, 關戸啓子 (2017): 複数患者受け持ち実習における指導体制の検討, 第27回日本医学看護学教育学会学術集会, 和歌山市, 3月.

## 星野 明子

研究分野: 地域看護学, 公衆衛生看護学, ヘルスプロモーション

研究活動:

### 論文

- 1) 志澤美保, 十一元三, 桂敏樹, 星野明子: 子どもの好き嫌いの影響要因の探索 - 定型発達児から広汎性発達障害児 -, 研究紀要, 食生活科学・文化, 環境に関する研究助成, 29, 2016.
- 2) 桂敏樹, 星野明子, 白井香苗, 志澤美保, 藤本萌美他8名: 地域住民中心の健康づくり活動 - セーフティ・プロモーションのためのデザイン設計 -, 日本農村医学会雑誌 Vol.65, No.2, 2016.
- 3) 石川信仁, 星野明子, 桂敏樹, 白井香苗: 男性特定健康診査受診者の再構成した指導区分とメタボリックシンドロームとの関連, 日本健康医学会雑誌, Vol.25, No.4, 2016.
- 4) 吉岡さおり, 志澤美保, 白井香苗, 大橋純子, 星野明子: 学部生の視野を広げるサイエンスカフェの試み, 京都府立医大看護紀要 26, 2016.
- 5) 星野明子, 志澤美保, 白井香苗, 他7名: 都市部高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成 - A 地域健康力アップ大作戦の経過 -, 京都府立医大看護紀要 26, 67-70, 2016.

### 学会発表

(国際学会)

- 6) Yuriko Nakahira, Akiko Hoshino, Miho Shizawa, Kanae Usui, Takeshi Kurokawa, Hideto Ogawa, Yoko Kawamura, Midori Hasegawa, Sato-Komata Michiko, Toshiki Katsura (2016): A Longitudinal Study of Factors Related to the WHO-5 and Community Health Promotion Activities in Rural Areas (Japan, Yokohama).
- 7) Miho Shizawa, Sayaka Yoshimura, Shuo Zhao, Akiko Hoshino, Toshiki Katsura, Motomi Toichi (2016): Do Autistic Traits Influence Food Preferences? A Large-scale Study with a General Population of Preschool Children in Japan, The 22nd International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions World Congress (Canada, Calgary).

(国内学会)

- 8) 志澤美保, 義村さや香, 趙 朔, 十一元三, 白井香苗, 星野明子, 桂 敏樹 (2016): 地域在住幼児を対象とした質問紙調査による食行動と自閉症的傾向および感覚特性との関係, 第27回日本発達心理学会大会 (札幌市).
- 9) 中川智子, 星野明子, 志澤美保 (2016): 母親の育児感情とストレスコーピング行動~夫の育児関与と子育て仲間に着目して~, 第57回日本母性衛生学会総会 (東京都).
- 10) 古俣理子, 黒川 剛, 小川英人, 川村洋子, 長谷川みどり, 星野明子, 志澤美保, 他4名 (2016): 中山間地域住民のWHO-5に関連する要因・宇治田原コホート研究 (第1報) 第75回日本公衆衛生学会総会 (大阪市).
- 11) 星野明子, 古俣理子, 黒川 剛, 小川英人, 川村洋子, 長谷川みどり, 志澤美保, 他4名 (2016): 中山間地域住民のWHO-5に関連する要因・宇治田原コホート研究 (第2報), 第75回日本公衆衛生学会総会 (大阪市).
- 12) 中平悠理子, 古俣理子, 黒川 剛, 小川英人, 川村洋子, 長谷川みどり, 星野明子, 志澤美保, 他4名 (2016): 中

山間地域住民の WHO-5 に関連する要因・宇治田原コホート研究（第 3 報），第 75 回日本公衆衛生学会総会（大阪市）。

- 13) 白井香苗，中村寛子，阿部成美，中平悠理子，藤原里奈，古俣理子，石川信仁，志澤美保，星野明子他 1 名 (2016): 都市部少子超高齢地域における住民参画による健康なまちづくりの持続可能性，第 75 回日本公衆衛生学会総会（大阪市）。
- 14) 古俣理子，星野明子，志澤美保，他 3 名 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 -2009 年および 2015 年調査結果の比較（第 1 報），第 65 回日本農村医学会学術総会（志摩市）。
- 15) 星野明子，古俣理子，志澤美保，他 3 名 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 -2009 年および 2015 年調査結果の比較（第 2 報），第 65 回日本農村医学会学術総会（志摩市）。
- 16) 中平悠理子，古俣理子，星野明子，志澤美保，他 2 名 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 -2009 年および 2015 年調査結果の比較（第 3 報），第 65 回日本農村医学会学術総会（志摩市）。

## 松岡 知子

研究分野：母性看護学・助産学

研究活動：

### 論文

- 1) 柴田明美，岩脇陽子，室田昌子，新垣洋美，井林寿恵，滝下幸栄，山本容子，原田清美，松岡知子，山中龍也 (2016): 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと，京都府立医科大学看護学科紀要，26(1)，1-11.

### 学会発表

- 2) 岩脇陽子，室田昌子，柴田明美，山本容子，滝下幸栄，松岡知子 (2016): 看護基礎教育における慢性期患者の在宅ケアに向けた継続看護の教育方法の検討，第 36 回日本看護科学学会学術集会，12 月，東京。
- 3) 松尾恵美，岩脇陽子，滝下幸栄，濱田知枝，宮脇舞，井林寿恵，室田昌子，柴田明美，松岡知子 (2016): 治療開始時のインフォームド・コンセント時に同席した看護師が小児がん患児の家族に実施した対応，第 36 回日本看護科学学会学術集会，12 月，東京。
- 4) 柴田明美，岩脇陽子，松岡知子，滝下幸栄，山本容子，井林寿恵，室田昌子，原田清美，新垣洋美 (2016): 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと，第 36 回日本看護科学学会学術集会，12 月，東京。
- 5) 福本環，岩脇陽子，松岡知子，岩破一博 (2016): 産婦人科医師の性暴力被害者に対する支援の実態 妊娠検査および緊急避妊薬処方に関心をあてて，第 57 回母性衛生学会，10 月，東京。
- 6) 福本環，岩脇陽子，松岡知子，岩破一博 (2016): 産婦人科医師の性暴力被害者に対する支援の実態 性感染症検査および治療薬処方に焦点をあてて，第 35 回日本思春期学会，10 月，東京。

## 森本 昌史

研究分野：小児科学，小児神経学，てんかん学，小児保健学

研究活動：

### 論文

- 1) Yamashita S, Chiyonobu T, Yoshida M, Maeda H, Zuiki M, Kidowaki S, Isoda K, Morimoto M, Kato M, Saitu H, Matsumoto N, Nakahata T, Saito MK, Hosoi H, (2016): Mislocalization of syntaxin-1 and impaired neurite growth observed in a human iPSC model for STXBP1-related epileptic encephalopathy, *Epilepsia*, 57: e81-6.
- 2) Maeda H, Chiyonobu T, Yoshida M, Yamashita S, Zuiki M, Kidowaki S, Isoda K, Yamakawa K, Morimoto M, Nakahata T, Saito MK, Hosoi H. (2016): Establishment of isogenic iPSCs from an individual with SCN1A mutation mosaicism as a model for investigating neurocognitive impairment in Dravet syndrome, *J Hum Genet*, 61(6):565-569.

### 学会発表

(国際学会)



- 3) Chiyonobu T, Maeda H, Yoshida M, Yamashita S, Zuiki M, Nakahata T, Saito MK, Morimoto M. Establishment of isogenic iPSCs from an individual with SCN1A mutation mosaicism as a model for investigating neurocognitive impairment in Dravet syndrome. The 14th International Child Neurology Congress. 2016 May 1-5; Amsterdam, the Netherlands.
- 4) Yamashita S, Chiyonobu T, Yoshida M, Maeda H, Zuiki M, Kato M, Saito H, Matsumoto N, Nakahata T, Saito MK, Morimoto M. Modeling the cellular phenotype of STXBP1-related epileptic encephalopathy using iPSC. 14th International Child Neurology Congress. 2016 May 3; Amsterdam, Netherlands.
- 5) Zuiki M, Chiyonobu T, Yoshida M, Kidowaki S, Yamashita S, Hasegawa T, Morimoto M. Modeling the neural impact of maternal immune activation using human induced pluripotent stem cells. The 14th International Child Neurology Congress. 2016 May 1-5; Amsterdam, the Netherlands.
- 6) Kidowaki S, Morimoto M, Yamada K, Sakai K, Zuiki M, Maeda H, Yamashita S, Morita T, Hasegawa T, Chiyonobu T, Tokuda S, Hosoi H. Longitudinal change in white matter in preterm infants without magnetic resonance imaging abnormalities: Assessment of serial diffusion tensor imaging and their relationship to neurodevelopmental outcomes. IASSIDD 15th World Congress. 2016 Aug 16; Melbourne, Australia.

(国内学会)

- 7) Yamashita S, Chiyonobu T, Yoshida M, Maeda H, Zuiki M, Kidowaki S, Isoda K, Morimoto M, Kato M, Saito H, Matsumoto N, Nakahata T, Saito MK, Hosoi H. Modeling the cellular phenotype of STXBP1-related epileptic encephalopathy using iPSC. 第58回日本小児神経学会学術集会. 2016年6月3日; 東京.
- 8) 木戸協智志, 森本昌史, 瑞木匡, 前田裕史, 山下哲史, 森田高史, 長谷川龍志, 千代延友裕, 徳田幸子, 細井創. 早産児の経時的な拡散パラメーターの変化についての検討. 第119回日本小児科学会学術集会. 2016年5月14日; 札幌.
- 9) 前田裕史, 千代延友裕, 吉田路子, 山下哲史, 瑞木匡, 木戸協智志, 磯田賢一, 森本昌史. SCN1A 変異モザイク個人由来 iPSC 細胞の樹立と病態解析への応用. 第50回日本てんかん学会学術集会. 2016年10月7日; 静岡.
- 10) 阪上智俊, 千代延友裕, 吉田路子, 森本昌史, 細井創. 動画から診断に至ったグルコーストランスポーター1欠損症の一男児例, 第433回日本小児科学会近畿地方会, 2016年9月18日; 京都.
- 11) 阪上智俊, 笠井高士, 水田依久子, 末松正也, 大曾根眞也, 東裕美子, 今村俊彦, 徳田隆彦, 森本昌史, 細井創, 水野敏樹. Parkinson 様症状を呈した, PGK-1 欠損症の一男児例, みやこ小児神経臨床懇話会, 2016年6月18日; 京都.
- 12) 吉田健司, 加藤竹雄, 短田浩一, 西村陽, 大前禎毅, 長村敏生, 松下浩子, 岡野創造, 丸山立憲, 粟屋智就, 千代延友裕, 森本昌史. 京都小児てんかんコホート研究 京都府下の小児てんかんの実態について. 第50回日本てんかん学会学術集会. 2016年10月8日; 静岡.

## 山中 龍也

研究分野: 臨床腫瘍学

研究活動:

著書

- 1) Kanayama T, Hayano A, Yamanaka R: MICRORNAS REGULATION AND PRIMARY CENTRAL NERVOUS SYSTEM LYMPHOMA. PP 81-98, In Yamanaka R (ed.), Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL): Incidence, Management and Outcomes, Nova Science Publishers, NY, 2016.
- 2) Yamanaka R: SALVAGE THERAPY FOR PRIMARY CENTRAL NERVOUS SYSTEM LYMPHOMA. pp 175-187, In Yamanaka R (ed.), Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL): Incidence, Management and Outcomes, Nova Science Publishers, NY, 2016.
- 3) Yamanaka R, Yoshioka S, Fujimoto S, Iwawaki Y: LONG-TERM OUTCOME AND SUPPORTIVE CARE IN PATIENTS WITH PRIMARY CENTRAL NERVOUS SYSTEM LYMPHOMA. pp 285-291, In Yamanaka R (ed.), Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL): Incidence, Management and Outcomes, Nova Science Publishers, NY, 2016.

## 論文

- 4) Nakajima S, Morii K, Takahashi H, Fujii Y, Yamanaka R: Prognostic significance of S-phase fractions in peritumoral invading zone analyzed by laser scanning cytometry in patients with high-grade glioma (preliminary study). *Oncology Letters* 11:2106-2110,2016.
- 5) Yamanaka R, Morii K, Shinbo Y, Sano M, Homma J, Tsuchiya N, Yajima N, Tsukamoto Y, Ogura R, Natsumeda M, Aoki H, Akiyama K, Saitoh T, Tamura T, Hondoh H, Kawaguchi A, Takahashi H, and Fujii Y : Late relapse of primary central nervous system lymphoma. *Leukemia Lymphoma* 58(2):475-477, 2017.
- 6) Yamanaka R, Morii K, Sano M, Homma J, Yajima N, Tsukamoto Y, Ogura R, Natsumeda M, Aoki H, Akiyama K, Saitoh T, Hondoh H, Kawaguchi A, Takahashi H, and Fujii Y : Long-term survivors of primary central nervous system lymphoma. *Jpn J Clin Oncol* 47(2), 101-107, 2017.
- 7) Tamura S, Mitsuki S, Yamanaka R :Anxiety in cancer patients receiving outpatient chemotherapy based on their employment status-improving patient support. *Cepal Review* March, 2819-2827, 2017.
- 8) Ma C, Horlad H, Pan C, Yano H, Ohnishi K, Fujiwara Y, Matsuoka M, Lee A, Niidome T, Yamanaka R, Takeya M, Komohara Y. Stat3 inhibitor abrogates the expression of PD-1 ligands on lymphoma cell lines. *Journal of Clinical and Experimental Hematopathology* [Epub ahead of print]
- 9) Yamanaka R, Hayano A: Secondary glioma following acute lymphocytic leukemia: Therapeutic implications. *Neurosurg Rev* 2016 May 10. [Epub ahead of print]
- 10) Yamanaka R, Hayano A, Kanayama T: Radiation-induced gliomas: A comprehensive review and meta-analysis. *Neurosurg Rev* 2016 Oct 5. [Epub ahead of print]
- 11) Yamanaka R, Hayano A, Kanayama T: Radiation-induced meningiomas: an exhaustive review of the literature. *World Neurosurg* 97:635-644,2017.
- 12) Yamanaka R, Hayano A: Radiation-induced sarcomas of the central nervous system: a systematic review. *World Neurosurg* 98:818-828, 2017.
- 13) Yamanaka R, Hayano A: Secondary craniofacial sarcomas following retinoblastoma: a systematic review. *World Neurosurg* [Epub ahead of print]
- 14) Yamanaka R, Hayano A: Radiation-induced schwannomas and neurofibromas: a systematic review. *World Neurosurg* [Epub ahead of print]
- 15) Yamanaka R, Hayano Radiation-induced malignant peripheral nerve sheath tumors: a systematic review. *World Neurosurg* [Epub ahead of print]
- 16) 柴田明美, 岩脇陽子, 室田昌子, 新垣洋美, 井林寿恵, 滝下幸栄, 山本容子, 原田清美, 松岡知子, 山中龍也 : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと . *京都府立医科大学看護学科紀要* 26: 1-11,2016.

## 学会発表

- 17) Yoshida K, Shiraishi Y, Chiba K, Okuno Y, Nakamoto-Matsubara R, Koriyama S, Yoshizato T, Shiozawa Y, Kataoka K, Ueno H, Takeda J, Tanaka H, Hayano A, Homma J, Fukai J, Kajiwara K, Ideguchi M, Komohara Y, Yajima N, Tsuchiya N, Sano M, Nitta M, Muragaki Y, Sakata-Yanagimoto M, Iwadata Y, Hondoh H, Miyano S, Chiba S, Yamanaka R and Ogawa S: Whole-Genome Sequencing of Primary Central Nervous System Lymphoma and Diffuse Large B-Cell Lymphoma. 58th ASH Annual Meeting and Exposition. San diego, CA, December 3-6, 2016.
- 18) Tamura S, Mitsuki S, Sakaguchi K, Yamanaka R. Anxiety and return to work in breast cancer patients receiving outpatient chemotherapy. *The Asian Conference on Psychology & The Behavioral Sciences*. Kobe, March 22-25, 2017.
- 19) 吉田健一, 千葉健一, 奥野友介, 垣内伸之, 鈴木啓道, 白石友一, 田中洋子, 村垣善浩, 椎名隆, 宮野悟, 千葉滋, 山中龍也, 小川誠司 . 中枢神経原発悪性リンパ腫におけるゲノム異常の全貌 . 第 75 回日本癌学会学術集会, 横浜, 10月 6 日 -8 日 ,2016.

## 浅野 弘明

研究分野：情報科学，統計学

研究活動：

### 論文

- 1) Masaki Kaibori, Kosuke Matsui, Morihiko Ishizaki, Hiroya Iida, Kengo, Yoshii, Hiroaki Asano, Masanori Kon (2016): Effects of implementing an "enhanced recovery after surgery" program on patients undergoing resection of hepatocellular carcinoma. Surg Today(On Line), DOI 10.1007/s00595-016-1344-2.
- 2) MASAKI KAIBORI, KOSUKE MATSUI, MORIHIKO ISHIZAKI, HIROYA IIDA, TADAYOSHI OKUMURA, TATSUMA SAKAGUCHI, KENTARO INOUE, TSUKASA IKEURA, HIROAKI ASANO, MASANORI KON (2016): Intraoperative Detection of Superficial Liver Tumors by Fluorescence Imaging Using Indocyanine Green and 5-aminolevulinic Acid. ANTICANCER RESEARCH 36, 1841-1850.
- 3) Sayuri Fukuda, Yurika Tanaka, Kiyomi Harada, Ayako Saruwatari, Kaori Kitaoka, Kiyoko Odani, Wataru Aoi, Sayori Wada, Yukari Nishi, Tatsuya Oguni, Hiroaki Asano, Nobuko Hagiwara and Akane Higashi (2017): High Maternal Age and Low Pre-Pregnancy Body Mass Index Correlate with Lower Birth Weight of Male Infants. Tohoku J. Exp. Med. 241(2), 117-123.

### 学会発表

(国際学会)

- 4) Yoshikazu Matsuoka, Tatsuya Fujioka, Keisuke Sumide, Kazuo Hatanaka, Fumiaki Nakamura, Kayoko Matsumoto, Satoshi Otani, Takafumi Kimura, Yoshihiro Fujimura, Hiroaki Asano, Yoshiaki Sonoda (2016): Quantification of the Actual Numbers of Transplantable CD34+CD133+ Hematopoietic Stem Cells Residing in the Umbilical Cord Blood (UCB) Units: A New Indicator of Quality Assurance of UCB Units. 58th ASH Annual Meeting, San Diego, CA, USA.

その他（講演等）

- 5) 浅野弘明 (2016): 情報処理の基礎（講演，日本看護協会・神戸研修センター主催認定看護師教育課程，9月6日）。
- 6) 浅野弘明 (2016): 正しい統計の使い方（講演，平成28年度京都府立医科大学リカレント講座Bコース，10月8日，15日，22日）。

## 大橋 純子

研究分野：在宅看護学，老年看護学，地域看護学

研究活動：

### 論文

- 1) 大橋純子 (2016): 戸建て住宅が立ち並ぶ地域の超高齢ニュータウンにおける地域のつながりづくり計画，京都府立医科大学看護学科紀要，26，61-65.
- 2) 吉岡さおり，志澤美保，臼井香苗，大橋純子，星野明子 (2016): 学部生の視野を広げるサイエンスカフェの試み，京都府立医科大学看護学科紀要，26，57-60.

### 学会発表

(国際学会)

- 3) Junko Ohashi(2016): Activities to develop community-level mutual assistance function through public collaboration, East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong.

(国内学会)

- 4) 大橋純子 (2016) : 超高齢ニュータウンにおける地域のつながりづくり計画—つどいの場を通して—，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪市，11月。

その他（講演等）

- 5) 大橋純子 (2016): 講演「行動変容を促すコーチング技術」兵庫県主催特定健診・保健指導実践者育成研修会，神戸市。
- 6) 大橋純子 (2017) : 講演「コーチング技術を活かした行動変容に導く働きかけ」全国健康保険協会兵庫県支部主催保健指導研修会，神戸市。



- 7) 大橋純子(2017): 講演「効果的な保健指導を行なうためのコーチング技術」健康保険組合連合会兵庫連合会主催保健指導研修会, 神戸市.

## 志澤 美保

研究分野: 地域看護学

研究活動:

### 論文

- 1) 志澤美保, 十一元三, 桂敏樹, 星野明子 (2016): 子どもの好き嫌いの影響要因の探索 - 定型発達児から広汎性発達障害児 -, 研究紀要 食生活科学・文化, 環境に関する研究助成, 29, 123-134.
- 2) 桂敏樹, 星野明子, 白井香苗, 志澤美保, 藤本萌美, 細川陸也, 西澤美香, 小田川敦, 石川智仁, 中川智子, 南川沙紀, 尾崎玲奈, 古俣理子 (2016): 地域住民中心の健康づくり活動 - セイフティ・プロモーションのためのデザイン設計 -, 日本農村医学会雑誌, 65 (2), 228-236.
- 3) 細川陸也, 桂敏樹, 志澤美保 (2016): 就学前児の社会的スキル発達に関連する育児環境の特徴, 小児保健研究, 75 (4), 453-462.
- 4) 吉岡さおり, 志澤美保, 白井香苗, 大橋純子, 星野明子 (2016): 学部生の視野を広げるサイエンスカフェの試み, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26, 57-60.
- 5) 星野明子, 志澤美保, 白井香苗, 石川信仁, 他7名 (2016): 都市部高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成 - A 地域健康力アップ大作戦の経過 -, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26, 67-70.
- 6) Rikuya Hosokawa, Toshiki Katsura and Miho Shizawa (2017): Relations of mother's sense of coherence and childrearing style with child's social skills in preschoolers, Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health, 11:11, 1-11.

### 学会発表

(国際学会)

- 7) Yuriko Nakahira, Akiko Hoshino, Miho Shizawa, Kanae Usui, Takeshi Kurokawa, Hideto Ogawa, Yoko Kawamura, Midori Hasegawa, Sato-Komata Michiko, Toshiki Katsura(2016): A Longitudinal Study of Factors Related to the WHO-5 and Community Health Promotion Activities in Rural Areas (Japan, Yokohama).
- 8) Miho Shizawa, Sayaka Yoshimura, Shuo Zhao, Akiko Hoshino, Toshiki Katsura, Motomi Toichi(2016): Do Autistic Traits Influence Food Preferences? A Large-scale Study with a General Population of Preschool Children in Japan, The 22nd International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions World Congress (Canada, Calgary).

(国内学会)

- 9) 志澤美保, 義村さや香, 趙 朔, 十一元三, 白井香苗, 星野明子, 桂 敏樹 (2016): 地域在住幼児を対象とした質問紙調査による食行動と自閉症的傾向および感覚特性との関係, 第27回日本発達心理学会大会 (札幌市).
- 10) 中川智子, 星野明子, 志澤美保 (2016): 母親の育児感情とストレスコーピング行動~夫の育児関与と子育て仲間に着目して~, 第57回日本母性衛生学会総会 (東京都).
- 11) 古俣理子, 黒川 剛, 小川英人, 川村洋子, 長谷川みどり, 星野明子, 志澤美保, 他4名 (2016): 中山間地域住民のWHO-5に関連する要因・宇治田原コホート研究 (第1報) 第75回日本公衆衛生学会総会 (大阪市).
- 12) 星野明子, 古俣理子, 黒川 剛, 小川英人, 川村洋子, 長谷川みどり, 志澤美保, 他4名 (2016): 中山間地域住民のWHO-5に関連する要因・宇治田原コホート研究 (第2報), 第75回日本公衆衛生学会総会 (大阪市).
- 13) 中平悠理子, 古俣理子, 黒川 剛, 小川英人, 川村洋子, 長谷川みどり, 星野明子, 志澤美保, 他4名 (2016): 中山間地域住民のWHO-5に関連する要因・宇治田原コホート研究 (第3報), 第75回日本公衆衛生学会総会 (大阪市).
- 14) 白井香苗, 中村寛子, 阿部成美, 中平悠理子, 藤原里奈, 古俣理子, 石川信仁, 志澤美保, 他2名 (2016): 都市部少子超高齢地域における住民参画による健康なまちづくりの持続可能性, 第75回日本公衆衛生学会総会 (大阪市).
- 15) 古俣理子, 星野明子, 志澤美保, 他3名 (2016): 中山間地域在住高齢者のWHO-5に関連する要因の検討 -2009年

および 2015 年調査結果の比較 (第 1 報), 第 65 回日本農村医学会学術総会 (志摩市)。

- 16) 星野明子, 古俣理子, 志澤美保, 他 3 名 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 -2009 年および 2015 年調査結果の比較 (第 2 報), 第 65 回日本農村医学会学術総会 (志摩市)。
- 17) 中平悠理子, 古俣理子, 星野明子, 志澤美保, 他 2 名 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 -2009 年および 2015 年調査結果の比較 (第 3 報), 第 65 回日本農村医学会学術総会 (志摩市)。
- 18) 志澤美保, 義村さや香, 趙朔, 十一元三 (2016): 地域の一般母集団を対象とした大規模調査における, 自閉症的傾向と食行動の関係 - 第二報 -, 第 57 回日本児童青年精神医学会総会 (倉敷市)。

## 園田 悦代

研究分野: 小児看護学, 看護教育

研究活動:

### 論文

- 1) 山口未久, 苅谷景子, 松尾恵美, 園田悦代 (2016): 小児看護学実習における看護実践能力向上のための指導者の取り組み - 大学と臨床の協同による教育効果 - 京都府立医科大学看護学科紀要, 26: 13-18.
- 2) 辻野睦子, 園田悦代 (2016): 看護学生の学年による小児療養環境における危険認知レベルの相違 - 眼球運動測定器を用いた検証 -, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26: 19-28.
- 3) 村田優子, 園田悦代 (2016): 看護師の一次救命処置に対する不安要因に関する基礎的研究, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26: 29-36.

### 学会発表

- 4) 辻野睦子, 園田悦代 (2016): 小児療養環境における看護学生の危険認知に関連した視線の軌跡 - 眼球運動測定による「視線を向けた領域」を分析して -, 一般社団法人日本小児看護学会第 26 回学術集会, 別府, 8 月.
- 5) 辻野睦子, 園田悦代 (2016): 小児療養環境における看護学生の視線の分析 - 危険認知と実習経験との関連 -, 一般社団法人日本看護研究学会第 42 回学術集会, つくば, 8 月.
- 6) 村田優子, 園田悦代 (2016): 看護師の一次救命処置に対する不安要因に関する基礎的研究, 一般社団法人日本看護研究学会第 42 回学術集会, つくば, 8 月.

### その他

- 7) 園田悦代 (2016): 看護学論 (小児看護学), 一般社団法人日本看護学校協議会主催 教務主任養成講習会, 大阪, 6 月 14 日.
- 8) 苅谷景子, 松尾恵美, 山口未久, 園田悦代 (2016): 小児看護学実習 (こども東病舎) における看護実践能力向上のための指導者の取り組み - 大学と臨床の協同による教育効果 - : 京都府立医科大学看護研究交流会, 京都, 10 月.
- 9) 木村美沙紀, 荻野奈々, 中山依里子, 田中直子, 柴田由里子, 白波瀬由美, 園田悦代 (2016): 先天性疾患児に対する手術における母親の不安軽減のための看護介入法の検討 - プレパレーションの有効性と母親の特性に関する基礎的資料の収集を中心に -, 京都府立医科大学看護研究交流会, 京都, 10 月.
- 10) 園田悦代 (2016): 公益社団法人アドバンス診療放射線技師格取得のため講習会「看護学」 - 「小児看護」, 京都, 11 月 27 日.

## 滝下 幸栄

研究分野: 基礎看護学, 看護教育, 看護歴史学

研究活動:

### 論文

- 1) 滝下 幸栄, 林 明美, 永野 裕子, 三宅 佳代子, 勝本 孝子, 川添 チエミ, 田中 涼子, 辻村 美春, 南田 喜久美 (2017): 多職種協働による高齢者の看取りケア推進に向けた継続教育の評価と課題, 日本看護学会論文集: 看護管理 47: 173-176
- 2) 滝下幸栄, 岩脇陽子, 藤本早和子, 室田昌子, 山本容子, 吉岡さおり, 原田清美, 曾我典子, 田島正恵, 井上恭子, 菅谷和子, 服部美景, 小城智圭子 (2016): 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護研修会の教育効果と

課題, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 37-45.

- 3) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉本敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016):大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 47-55.
- 4) 柴田明美, 岩脇陽子, 室田昌子, 新垣洋美, 井林寿恵, 滝下幸栄, 山本容子, 原田清美, 松岡知子, 山中龍也 (2016): 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26(1), 1-11.
- 5) Murota M, Iwawaki Y, Uebaba K, Yamamoto Y, Takishita Y, Harada K, Shibata A, Narumoto J, and Fukui K (2016):Physical and Psychological Effects of Head Treatment in the Supine Position Using Specialized Ayurveda-based Techniques. The Journal of Alternative and Complementary Medicine,22(7):526-32.

#### 学会発表

- 6) Kyomi Harada, Kiyo Ochi, Tetsuya Taguchi, Terukazu Nakamura, Motohiro Kanazawa, Naohisa Yoshida, Hiroko Neriya, Masami Okagaki, Naoko Nishida, Yukie Takashita Yoko Yamamoto, Sayori Wada, Masashi Kuwahata, Isao Yokota, Keiko Sekido, Akane Higashi (2017) : Validity of the Short Nutritional Assessment Questionnaire for Japanese Patients with Cancer Undergoing Outpatient Chemotherapy, The Journal of Medical Investigation, 64 (1.2) : 117-121.
- 7) 滝下幸栄, 林明美, 永野裕子, 三宅佳代子, 勝本孝子, 川添チエミ, 田中涼子, 辻村美春 (2016) : 多職種協働によるより良い看取りケア推進に向けた継続教育の現状と課題, 第 47 回日本看護学会 (看護管理) 学術集会, 金沢市, 9 月
- 8) 安立左知世, 祖父江美奈子, 杉森敦子, 滝下幸栄 (2016) : 入退院センターにおける患者支援の効果と課題, 第 47 回日本看護学会 (看護管理) 学術集会, 金沢市, 9 月
- 9) 林明美, 滝下幸栄, 永野裕子, 三宅佳代子, 勝本孝子, 川添チエミ, 田中涼子, 辻村美春, 南田喜久美 (2016) : 多職種協働によるより良い看取りケアを目指した看取り研修の効果と課題, 第 47 回日本看護学会 (看護管理) 学術集会, 金沢市, 9 月
- 10) 岩脇陽子, 室田昌子, 柴田明美, 山本容子, 滝下幸栄, 松岡知子 (2016) : 看護基礎教育における慢性期患者の在宅ケアに向けた継続看護の教育方法の検討, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 12 月, 東京.
- 11) 松尾恵美, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 濱田知枝, 宮脇舞, 井林寿恵, 室田昌子, 柴田明美, 松岡知子 (2016) : 治療開始時のインフォームド・コンセント時に同席した看護師が小児がん患児の家族に実施した対応, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 12 月, 東京.
- 12) 柴田明美, 岩脇陽子, 松岡知子, 滝下幸栄, 山本容子, 井林寿恵, 室田昌子, 原田清美, 新垣洋美 (2016) : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 12 月, 東京.
- 13) 原田清美, 西田直子, 滝下幸栄, 山本容子, 關戸啓子 (2016) : 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究—簡易栄養評価法 (SNAQ) を用いた栄養評価—, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京都, 12 月.
- 14) 原田清美, 越智幾世, 滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 關戸啓子, 東あかね (2017) : 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究—年齢区分別, 栄養状態の比較検討—, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 高知市, 2 月.
- 15) 濱田知枝, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 宮脇舞, 松尾恵美 (2016) : 病棟看護師が捉える看護師間に生じている肯定的な相互作用の内容, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京都, 12 月.

#### 室田 昌子

研究分野 : 成人看護学, 基礎看護学, 看護技術, 看護教育, 精神看護学

研究活動 :

#### 論文

- 1) Murota M, Iwawaki Y, Uebaba K, Yamamoto Y, Takishita Y, Harada K, Shibata A, Narumoto J, and Fukui K

(2016):Physical and Psychological Effects of Head Treatment in the Supine Position Using Specialized Ayurveda-based Techniques. The Journal of Alternative and Complementary Medicine,22(7):526-32.

#### 研究報告

- 2) 柴田明美, 岩脇陽子, 室田昌子, 新垣洋美, 井林寿恵, 滝下幸栄, 山本容子, 原田清美, 松岡知子, 山中龍也 (2016): 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 1-12.
- 3) 滝下幸栄, 岩脇陽子, 藤本早和子, 室田昌子, 山本容子, 吉岡さおり, 原田清美, 曾我典子, 田島正恵, 井上恭子, 菅谷和子, 服部美景, 小城智圭子 (2016) : 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護研修会の学習効果と課題, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 37-45.
- 4) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉森敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016): 大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要 26 : 47-55.

#### 学会発表

- 5) 西田直子, 鈴木ひとみ, 原田清美, 岩脇陽子, 山本容子, 室田昌子, 埴田和史, 辻村裕次 (2016) : 車いす利用者による京都市内の避難所のバリアフリー情報に関する評価, 第 57 回日本社会医学会総会, 草津市, 8 月.
- 6) 岩脇陽子, 室田昌子, 柴田明美, 山本容子, 滝下幸栄, 松岡知子 (2016) : 看護基礎教育における慢性期患者の在宅ケアに向けた継続看護の教育方法の検討, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 7) 柴田明美, 岩脇陽子, 松岡知子, 滝下幸栄, 山本容子, 井林寿恵, 室田昌子, 原田清美, 新垣洋美 (2016) : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 8) 松尾恵美, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 濱田知枝, 宮脇舞, 井林寿恵, 室田昌子, 柴田明美, 松岡知子 (2016) : 治療開始時のインフォームド・コンセント時に同席した看護師が小児がん患児の家族に実施した対応, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.
- 9) 武山雅志, 岩脇陽子, 北岡和代, 室田昌子, 丸岡直子 (2016) : 友人関係から見た看護学生のコミュニケーションスキルの特徴, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.

#### 吉岡 さおり

研究分野 : がん看護学, 看護教育学, 看護診断学

研究活動 :

著書

- 1) Yamanaka, R., Yoshioka, S., Fujimoto, S., & Iwawaki, Y. (2016). Long-Term Outcome and Supportive Care in Patients with Primary Central Nervous System Lymphoma. In Ryuya Yamanaka (Ed). Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL) Incidence, Management and Outcomes (pp285-291).NY; Nova Biomedical.

論文

- 2) 中村真理子, 小笠原知枝, 檜原理恵, 吉岡さおり, 多治見佳代子, 佐藤郁代 (2016). 准看護師養成に携わる看護教員の職務満足感, 准看護師制度の捉え方及び個人属性から分析したバーンアウトの要因, 日本ヒューマンヘルスケア学会誌, 1(1), 11-20.
- 3) 吉岡さおり, 志澤美保, 白井香苗, 大橋純子, 星野明子 (2016). 学部生の視野を広げるサイエンスカフェの試み. 京都府立医科大学看護学科紀要, 26, 57-60.
- 4) 滝下幸栄, 岩脇陽子, 藤本早和子, 室田昌子, 山本容子, 吉岡さおり 他 (2016). 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護研修会の教育効果と課題. 京都府立医科大学看護学科紀要, 26, 37-46.
- 5) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり他 (2016). 大学病院におけるがんサロンを運営に関する調査. 京都府立医科大学看護学科紀要, 26, 47-56.

学会発表

(国内学会)



- 6) 菅谷和子, 杉浦康代, 野竿知里, 橋本佳奈, 坂東加代子, 吉岡さおり, 中村晃和 (2016). がん化学療法による末梢神経障害 (chemotherapy-induced peripheral neuropathy: CIPN) を有する進行性精巣腫瘍患者の運動機能に関する症例報告, 第 54 回日本癌治療学会学術集会, 横浜市.
- 7) 吉岡さおり, 片山はるみ (2016). 終末期がん患者の在宅療養移行支援に対する一般病棟看護師の役割の認識. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- 8) 中村卓樹, 吉岡さおり, 入江多津子, 松田有子 (2016). がん看護に携わる一般病棟看護師の自律性とその関連要因～批判的思考・職場風土の視点から～. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- 9) 宮脇舞, 岩脇陽子, 吉岡さおり, 松尾恵美, 濱田知枝 (2016). 緩和病棟に入院しているがん患者の倦怠感を軽減するハンドトリートメントの予備的研究. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- 10) 杉浦康代, 野竿知里, 橋本佳奈, 菅谷和子, 坂東佳代子, 荻田みわ子, 吉岡さおり (2017). がん化学療法による精巣腫瘍患者の末梢神経障害 (chemotherapy-induced peripheral neuropathy:CIPN) の実態調査研究. 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 高知市.

#### その他

- 11) 吉岡さおり (2016): 病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程 子宮がん. プチナース 10 月号別冊 (pp1-20), 東京: 照林社.

#### 臼井 香苗

研究分野: 地域看護学

研究活動:

著書

- 1) 星 且二監修, 臼井香苗他: 保健師国家試験 問題解説 (2016), メディカ出版.

論文

- 2) 桂 俊樹, 星野明子, 臼井香苗他 (2016): 地域住民中心の健康づくり活動 セイフティ・ヘルスプロモーションのためのデザイン設計, 日本農村医学雑誌, 65 (3), 228-236.
- 3) 石川信仁, 星野明子, 臼井香苗他 (2016): 男性特定健康診査受診者の再構成した指導区分とメタボリックシンドロームとの関連, 日本健康医学会雑誌, 25 (4), 310-314.

学会発表

(国内学会)

- 4) 小俣理子, 星野明子, 臼井香苗他 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 2009 年および 2015 年調査結果の比較 (第 1 報), 第 65 回日本農村医学会学術総会, 志摩市, 10 月.
- 5) 星野明子, 志澤美保, 臼井香苗他 (2016): 中山間地域在住高齢者の WHO-5 に関連する要因の検討 宇治田原コホート研究 (第 2 報), 第 65 回日本農村医学会学術総会, 志摩市, 10 月.
- 6) 中平悠理子, 星野明子, 臼井香苗他 (2016): 中山間地域におけるライフスタイルと地域保健活動 2009 年および 2015 年の比較 (第 3 報), 第 65 回日本農村医学会学術総会, 志摩市, 10 月.
- 7) 小俣理子, 志澤美保, 臼井香苗他 (2016): 中山間地域住民の WHO-5 に関連する要因 2009 年・2015 年の比較 (第 1 報), 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市, 10 月.
- 8) 星野明子, 志澤美保, 臼井香苗他 (2016): 中山間地域住民の WHO-5 に関連する要因 宇治田原コホート研究 (第 2 報), 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市, 10 月.
- 9) 中平悠理子, 志澤美保, 臼井香苗他 (2016): 住民のライフスタイルと保健師活動 2009 年・2015 年の年代別比較 (第 3 報), 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市, 10 月.
- 10) 臼井香苗, 志澤美保, 星野明子他 (2016): 都市部少子超高齢地域における住民参画による健康なまちづくりの持続可能性, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市, 10 月.



## 占部 美恵

研究分野：精神看護学

研究活動：

### 学会発表

(国際学会)

- 1) Mie Urabe(2016) : Attitudes and skills of psychiatric nurses to understand the wishes of patients with dementia who have behavioral and psychological symptoms of dementia in Japan, Alzheimer's Association International Conference, Toronto, Canada, July.

(国内学会)

- 2) 福田弘子, 占部美恵, 北島謙吾, 水野正延 (2017) : 統合失調症患者の社会機能と抗精神病薬服用量の関連, 第12回日本統合失調症学会, 鳥取県米子市, 3月.

その他

- 3) 塚本好美, 山縣桃子, 占部美恵, 今松一郎, 田中久子, 土井和美 (2017) : のほほんカフェー地域で集える場所ー, 第29回下西集談会, 京都, 3月.

## 岡野 明美

研究分野：地域看護

研究活動：

著書

- 1) 上野昌江, 和泉京子編集, 岡野明美他 (2016) : 公衆衛生看護学, 249 - 262, 東京 : 中央法規.

### 学会発表

(国内学会)

- 2) 岡野明美 (2016) : 地域看護 CNS のコンサルテーションの特性～民間で行政委託事業を担う保健師の実践. 第3回日本 CNS 看護学会, 東京, 6月.
- 3) 岡野明美, 小林奈緒子, 曾我智子, 樋上静, 室岡真樹, 持田恵理, 仙田寿子 (2016) : 倫理的課題を含む事例への看護展開, 5回日本公衆衛生看護学術集会, 仙台, 1月.

## 越智 幾世

研究分野：成人看護学, がん看護学

研究活動：

論文

- 1) 越智幾世, 光木幸子, 岩脇陽子 (2013) : 化学放射線同時併用療法を受ける頭頸部領域がん患者の口腔ケアの認識と継続の関連要因, 京都府立医科大学大学院保健看護研究科修士論文要旨, 87.
- 2) 吉田直久, 中村晃和, 松田清美, 越智幾世, 大橋宗洋, 中河秀生, 萩原暢久, 安田知代, 廣瀬亮平, 土井俊文, 福田亘, 上原有紀子, 岡山哲也, 石川剛, 内藤裕二, 伊藤義人, 大石正勝, 三木恒治 (2014) : 外来化学療法患者における症状チェックシートによる網羅的な副作用解析, Progress in Medicine, 34(9) : 1647-1655.
- 3) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 吉岡とも子, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉森敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016) : 大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26 : 47-56.

### 学会発表

- 4) 越智幾世, 松田清美, 中村晃和, 吉田直久, 井原 憲彦, 塚本 茂, 三木 恒治 (2013) : ホスアプレピタント投与による血管反応の解析, 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都市, 10月.
- 5) 吉田直久, 中西正芳, 越智幾世, 松田清美, 菅谷和子, 塚本茂, 井原憲彦, 岡山哲也, 石川剛, 古倉聡, 谷脇雅史 (2013) : オキサリプラチンによる末梢神経障害に対する牛車腎気丸の有効性について, 第51回日本癌治療学

会学術集会, 京都市, 10月.

- 6) 越智幾世 (2014): 前立腺癌の化学療法におけるケア, 日本老年泌尿器科学会, 山形市, 5月.
  - 7) 越智幾世, 光木幸子, 岩脇陽子 (2015): 化学放射線同時併用療法を受ける頭頸部領域がん患者の口内炎出現前後における口腔ケアに対する認識, 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜市, 2月.
  - 8) 越智幾世, 中村晃和, 吉田直久, 平尾真由美, 松田清美, 井原憲彦, 塚本茂, 三木恒治 (2015): 外来化学療法を受ける患者における口内炎がQOLに及ぼす影響, 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都市, 10月.
  - 9) 吉田直久, 中村晃和, 越智幾世, 松田清美, 平尾真由美, 吉岡とも子, 井原憲彦, 岡山哲也, 石川剛, 内藤裕二, 伊藤義人, 谷脇雅史, 三木恒治: 抗がん剤治療に伴う口内炎に対する半夏瀉心湯の含嗽の有用性, 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都市, 10月.
  - 10) 越智幾世, 光木幸子 (2015): 化学放射線同時併用療法を受ける頭頸部領域がん患者の口内炎出現前後における口腔ケアに対する認識, 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜市, 2月.
  - 11) 杉本涼子, 越智幾世, 堀弥生, 菅谷和子, 乾和江, 中森真由美, 田村美子, 本田薫 (2015): 京都がん化学療法看護認定看護師グループ(K-CCNG)の看護セミナーの評価, 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜市, 2月.
  - 12) 越智幾世, 岩脇陽子, 藤本早和子, 里美志穂, 森田直子, 清水由美子, 杉森敦子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 原田清美 (2016): がん患者家族サロンの運営に対するがん患者の家族の思い, 第30回日本がん看護学会学術集会, 千葉市, 2月.
  - 13) 越智幾世, 吉田直久, 金沢元洪, 神林祐子, 中嶋佑樹, 岡山哲也, 石川剛, 中村晃和, 中西正芳, 大辻英吾, 内藤裕二, 伊藤義人, 田口哲也 (2016): SOX療法における悪心嘔吐に対する支持療法およびその効果, 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜市, 10月.
  - 14) 原田清美, 越智幾世, 山本容子, 滝下幸栄, 西田直子, 關戸啓子, 東あかね (2017): 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究 年齢区分別栄養状態の比較検討, 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知市, 2月.
- その他: シンポジウム
- 15) 越智幾世 (2017): 外来化学療法センターでの患者指導の実際, 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山市, 2月.

## 佐伯 良子

研究分野: 成人看護学, 看護教育学

研究活動:

### 論文

- 1) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美, 杉森敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016): 大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査. 京都府立医科大学看護学科紀要 .26,47-55.

### 学会発表

(国内学会)

- 2) 佐伯良子, 藤原由美, 岩脇陽子 (2016): 人工股関節置換術を受ける患者への日常生活指導演習の学習効果, 第43回日本股関節学会学術集会, 大阪, 11月.

## 中島 奈美

研究分野: 母性看護学, 助産学

研究活動:

### 学会発表

(国内学会)

- 1) 中島奈美, 大蔵珠己 (2016): 死産体験記から抽出した親子の性質と看護者の役割. 第31回日本助産学会学術集会, 徳島, 3月.

- 2) 大蔵珠己, 中島奈美 (2016): ペリネイタル・ロスに関わる看護者の学習動機と学習からの気付き—流産・死産・新生児死亡におけるケアセミナーの質問紙調査から—第 31 回日本助産学会学術集会, 徳島, 3 月.

### 馬場口 喜子

研究分野: 小児看護学, 看護教育

研究活動: 該当なし

### 山本 容子

研究分野: 基礎看護学, 看護教育

研究活動:

#### 論文

- 1) Murota M, Iwawaki Y, Uebaba K, Yamamoto Y, Takishita Y, Harada K, Shibata A, Narumoto J, and Fukui K (2016): Physical and Psychological Effects of Head Treatment in the Supine Position Using Specialized Ayurveda-based Techniques. The Journal of Alternative and Complementary Medicine, 22(7):526-32.

#### 研究報告

- 2) 柴田明美, 岩脇陽子, 室田昌子, 新垣洋美, 井林寿恵, 滝下幸栄, 山本容子, 原田清美, 松岡知子, 山中龍也 (2016): 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 京都府立医科大学看護学科紀要 26: 1-11.
- 3) 滝下幸栄, 岩脇陽子, 藤本早和子, 室田昌子, 山本容子, 吉岡さおり, 原田清美, 曾我典子, 田島正恵, 井上恭子, 菅谷和子, 服部美景, 小城智圭子 (2016): 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護研修会の教育効果と課題, 京都府立医科大学看護学科紀要 26: 37-45.
- 4) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉本敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016): 大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要 26: 47-55.

#### 学会発表

- 5) 西田直子, 鈴木ひとみ, 原田清美, 岩脇陽子, 山本容子, 室田昌子, 埴田和史, 辻村裕次 (2016): 車いす利用者による京都市内の避難所のバリアフリー情報に関する評価, 第 57 回日本社会医学会総会, 草津市, 8 月.
- 6) 原田清美, 滝下幸栄, 山本容子, 關戸啓子 (2016): 学生の食事介助で大切にすべきことへの認識の変化—演習実施前後を比較して—, 日本看護学教育学会第 26 回学術集会, 東京都, 8 月.
- 7) 原田清美, 西田直子, 滝下幸栄, 山本容子, 關戸啓子 (2016): 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究—簡易栄養評価法 (SNAQ) を用いた栄養評価—, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京都, 12 月.
- 8) 柴田明美, 岩脇陽子, 松岡知子, 滝下幸栄, 山本容子, 井林寿恵, 室田昌子, 原田清美, 新垣洋美 (2016): 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京都, 12 月.
- 9) 岩脇陽子, 室田昌子, 柴田明美, 山本容子, 滝下幸栄, 松岡知子 (2016): 看護基礎教育における慢性期患者の在宅ケアに向けた継続看護の教育方法の検討, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京都, 12 月.
- 10) 原田清美, 越智幾世, 滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 關戸啓子, 東あかね (2017): 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究—年齢区分別, 栄養状態の比較検討—, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 高知市, 2 月.

### 吉岡 友香子

研究分野: 母性・助産学

研究活動: 該当なし

## 原田 清美

研究分野：基礎看護学，成人看護学，栄養学

研究活動：

### 論文

- 1) Masako Murota, Yoko Iwawaki, Kazuo Uebaba, Yoko Yamamoto, Yukie Takishita, Kiyomi Harada, Akemi Shibata, Jin Narumoto, Kenji Fukui (2016): Physical and Psychological Effects of Head Treatment in the Supine Position Using Specialized Ayurveda-based Techniques The Journal of Alternative and Complementary Medicine, 22(7): 526-532.
- 2) Sayuri Fukuda, Yurika Tanaka, Kiyomi Harada, Ayako Saruwatari, Kaori Kitaoka, Kiyoko Odani, Wataru Aoi, Sayori Wada, Tatsuya Oguni, Hiroaki Asano, Nobuko Hagiwara, Akane Higashi (2017): High Maternal Age and Low Pre-Pregnancy Body Mass Index Correlate with Lower Birth Weight in Male Infants Depending on the Sex of the Infant, Tohoku J. Exp. Med.,237(1): 69-75.
- 3) Kiyomi Harada, Kiyo Ochi, Tetsuya Taguchi, Terukazu Nakamura, Motohiro Kanazawa, Naohisa Yoshida, Hiroko Neriya, Masami Okagaki, Naoko Nishida, Yukie Takishita, Yoko Yamamoto, Sayori Wada, Masashi Kuwahata, Isao Yokota, Keiko Sekido, Akane Higashi (2017): Validity of the Short Nutritional Assessment Questionnaire for Japanese Patients with Cancer Undergoing Outpatient Chemotherapy, The Journal of Medical Investigation, 64(1.2): 117-121.
- 4) 柴田明美, 岩脇陽子, 室田昌子, 新垣洋美, 井林寿恵, 滝下幸栄, 山本容子, 原田清美, 松岡知子 (2016) : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26 : 1-11.
- 5) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 吉岡とも子, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉森敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016) : 大学附属病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26 : 37-45.
- 6) 滝下幸栄, 岩脇陽子, 室田昌子, 山本容子, 吉岡さおり, 原田清美, 藤本早和子, 曾我典子, 田島正恵, 菅谷和子, 服部美景, 小城智圭子 (2016) : 都道府県がん診療連携拠点病院におけるがん看護研修会の学習効果と課題, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26 : 47-55.

### 学会発表

(国際学会)

- 7) Ayako Saruwatari, Yurika Tanaka, Kiyomi Harada, Masayo Iwasa, Kiyoko Odani, Furutani, Kayo., Yukari Nishi, Sayuri Fukuda, and Akane Higashi, Maternal leanness at the beginning of pregnancy affect the physique of infants (Longitudinal study) , The 12th Asian Congress of Nutrition, Yokohama Japan, May, 2015.

(国内学会)

- 8) 西田直子, 鈴木ひとみ, 原田清美, 岩脇陽子, 山本容子, 室田昌子, 埴田和史, 辻村裕次 (2016) : 車いす利用者による京都市内の避難所のバリアフリー情報に関する評価, 第57回日本社会医学会総会学術集会, 滋賀.8月
- 9) 原田清美, 滝下幸栄, 山本容子, 關戸啓子 (2016) : 看護学生の食事介助で大切にすべきことへの認識の変化ー演習実施前後を比較してー, 第26回日本看護学教育学会学術集会, 東京.8月
- 10) 原田清美, 滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 關戸啓子 (2016) : 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究ー簡易栄養評価法 (SNAQ) を用いた栄養評価ー第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.12月
- 11) 原田清美, 柴田明美, 岩脇陽子, 松岡知子, 滝下幸栄, 山本容子, 井林寿恵, 室田昌子, 原田清美, 新垣宏美 (2016) : 女性看護師が就業を継続している理由と今後の就業継続に必要なこと, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.12月
- 12) 原田清美, 越智幾世, 滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 關戸啓子, 東あかね (2016) : 外来化学療法中のがん患者の栄養状態に関する研究ー年齢区分別, 栄養状態の比較検討ー, 第31回日本がん看護学学会学術集会, 高知.2月

## 山口 未久

研究分野：小児看護学

研究活動：

著書

- 1) 法橋尚宏編著, 山口未久他 (2017): 看護師国師ラピッドスタディ 2017, 東京: EDITEX.

論文

- 2) 山口未久, 荻谷景子, 松尾恵美, 園田悦代 (2016) 小児看護学実習における看護実践能力向上のための指導者の取り組み—大学と臨床の協同による教育効果: 看護技術経験率からの検証—京都府立医科大学看護学科紀要, 26: 13-18.

その他

- 3) 山口未久, 鈴木真知子 (2016): 成人移行期デュシャンヌ型筋ジストロフィー患者への親の関わり—グラウンデッドセオリーによる質的研究—: 京都府立医科大学看護研究交流会, 京都. 10月.
- 4) 荻谷景子, 松尾恵美, 山口未久, 園田悦代 (2016): 小児看護学実習 (こども東病舎) における看護実践能力向上のための指導者の取り組み—大学と臨床の協同による教育効果—: 京都府立医科大学看護研究交流会, 京都. 10月.
- 5) 佐藤謙, 山口未久他 (2016): 重度訪問介護 10年「自宅で暮らしたいのに」届かない支援: NHK 首都圏ネットワーク (2016年8月5日放送回), 東京. 8月.

## 吉田 裕子

研究分野：母性看護学, 助産学

研究活動：

学会発表

- 1) 吉田裕子, 立岡弓子 (2016): 周産期女性のメンタルヘルスにおけるオメガ3脂肪酸摂取の効果に関するシステムティックレビュー, 日本助産学会, 徳島, 3月.

## 石川 信仁

研究分野：地域看護学, 予防看護学

研究活動：

論文

- 1) 石川信仁, 星野明子, 桂敏樹, 白井香苗 (2017): 男性特定健康診査受診者の再構成した指導区分とメタボリックシンドロームとの関連, 日本健康医学会雑誌, 25(4), 310-314.
- 2) 星野明子, 志澤美保, 白井香苗, 石川信仁, 中川智子, 小田川敦, 南川沙紀, 尾崎玲奈, 古俣理子, 細川陸也, 桂敏樹, 都市部高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成—A地域健康力アップ大作戦の経過, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26巻, 67-70.
- 3) 桂敏樹, 星野明子, 白井香苗, 志澤美保, 藤本萌美, 細川陸也, 西澤美香, 小田川敦, 石川信仁, 中川智子, 南川沙紀, 尾崎玲奈, 古俣理子, 地域住民中心の健康づくり活動—セイフティ・ヘルスプロモーションのためのデザイン設計, 日本農村医学会雑誌, 65(2), 228-236.

学会発表

(国内学会)

- 4) 白井香苗, 中村寛子, 阿部成美, 中平悠理子, 藤原里奈, 古俣理子, 石川信仁, 志澤美保, 星野明美, 桂秀樹 (2016) 都市部少子超高齢地域における住民参画による健康なまちづくりの持続可能性, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 10月.



## 北本 麻由

研究分野：成人看護学

研究活動：

### 論文

- 1) 岩脇陽子, 原田清美, 滝下幸栄, 室田昌子, 福本環, 越智幾世, 柴田明美, 佐伯良子, 山本容子, 吉岡さおり, 北本麻由, 森田直子, 里見志穂, 清水裕美子, 杉森敦子, 藤本早和子, 松尾恵美, 芦田理恵, 太田真由美, 菅谷和子, 服部美景, 関川加奈子, 曾我典子, 小城智圭子 (2016): 大学病院におけるがんサロン運営に関する調査, 京都府立医科大学看護学科紀要, 26 : 47-55

## 福田 弘子

研究分野：精神看護学

研究活動：

### 著書

- 1) 近藤信子, 萩典子, 福田弘子, 他 14 名 (2016): 働く人のメンタルヘルス不調の予防と早期支援, 94-99, 東京: 金子書房.

### 学会発表

- 2) 福田弘子, 占部美恵, 北島謙吾, 水野正延 (2017): 統合失調症患者の社会機能と抗精神病薬服用量の関連, 第 12 回日本統合失調症学会, 米子市, 3 月.

## 福本 環

研究分野：成人看護学, フォレンジック看護学

研究活動：

### 論文

- 1) 黒星晴夫, 岩破一博, 伊藤文武, 森泰輔, 安尾忠浩, 福本環, 北脇城 (2016): 淋菌による骨盤内炎症性疾患の 1 例, 日本性感染症学会, 27(1) : 151-154.

### 学会発表

- 2) 福本環, 岩脇陽子, 松岡知子, 岩破一博 (2016): 産婦人科医師の性暴力被害者に対する支援の実態－性感染症検査および治療薬処方に関心をあてて－, 第 34 回日本思春期学会, 東京, 8 月.
- 3) 岩破一博, 福本環, 伊藤文武, 黒星晴夫, 森泰輔, 北脇城 (2016): 産婦人科領域でのクラミジア感染症治療の検討, 第 34 回日本クラミジア研究会学術集会, 東京, 9 月.
- 4) 福本環, 岩脇陽子, 松岡知子, 岩破一博 (2016): 産婦人科医師の性暴力被害者に対する支援の実態－妊娠検査および緊急避妊薬処方に焦点をあてて－, 第 57 回日本母性衛生学会, 東京, 10 月.

その他 (講演)

- 5) 福本環 (2016): 平成 28 年度内閣府性犯罪被害者等のための総合支援モデル事業「医療機関 (産婦人科医療機関) 向け研修」(DVD 講義). 京都府健康福祉部家庭支援課, 8 月 26 日 DVD 撮影.
- 6) 福本環 (2016): 産婦人科医療機関における看護職者の役割 (講義). 京都府健康福祉部家庭支援課, 第 3 回性暴力被害者支援員養成講座, 9 月 3 日.

## 村上 佳栄子

研究分野：地域看護学

研究活動：該当なし

**安井 千春**

研究分野：母性・助産学

研究活動：

**学会発表**

(国際学会)

- 1) N.Kataoka,N.Nozaki,S.oda,H.Fkui,C.Nishibori,H.Katsuragawa (2015):One-day additional culture of thawed blastocysts prior to transfer improved survival rate and pregnancy rate. 生殖医学会,横浜,4月